

## 『創造都市を創造する』

### 29. 「老松西天満アートストリート」構想

アートストリート構想サイト（ccキタドットジェイピー／アートストリート）の記録

#### 老松西天満とは？

##### （1）アートが集積する奇跡のまち－老松西天満地域

天満地域は、古くは太融寺の寺内町であり、近世の「大阪三郷」が「北組」「南組」「天満組」であったことからわかるように北区で最も古い街区です。江戸時代の中頃までの街区は寺町以南であり、東海道・山陽道をへて他の地方から大阪に入る旅人は、北野村から曾根崎天神の横を通り、老松通りから天満宮に向いました。老松通りは天神の表参道であり、大阪の表玄関だったのです。

現在老松町には、古美術、ギャラリー（現代画廊販売、貸し画廊）などのアート関係店舗があわせて80軒前後集積していることで知られています。東京や京都にはこのような街が多く、みな瀟洒で繁華な街となっていますが、大阪では現在ここが代表例で、その意味で奇跡の街といえるでしょう。

##### （2）集積の歴史

この集積については研究されており、起源は大正・昭和（戦前）ごろからと思われれます。今では区別出来ないが、元来古美術店とは、「古美術商」「茶道具商」「鑑賞用の道具商」の3種類に分かれていたと言われており、その様な形態から移行してきたものと考えられます。集積のイニシエーター（創始者）としては、東洋陶磁美術館（安宅コレクション）・出光美術館など多くの美術館設立にも深く関わり、大阪だけでなく、古美術の世界では無視できない存在であった「平野古陶軒」（現在は弟子筋の和泉玉簀堂さんが立地）がいました。平野古陶軒は、旧大阪市東区（現中央区）平野町で開業していましたが、戦災で焼け出され、1947年に老松町に移ったのです。この弟子筋などが現在のいわゆる暖簾系の店舗になります。平野古陶軒をイニシエーター（創始者）とすると、1979年に開店した「梅田グランドギャラリー」や1962年に開業した貸し画廊の「大阪現代画廊」などがプロモーター（促進者）であり、以後自主独立系のアート関連店舗集積が活発になっていきました。すなわち1982年頃より暖簾系のネットワークにより店舗数が増え、1989年頃より、自主独立系も含めて集積数が増大したといえます（田中2006による）。

##### （3）アートの都市再生効果

ところで、都市を活性化しにぎわいをもたらすものとして、世界中の都市で、アートの効果が重要視されるようになってきています（創造都市の理論）。一方、扇町創造村構想でもわかるように、大阪市北区は、大阪市内でも、デザインやアート系の業種の半数近くが集積しているという注目すべき地域です。中でも、老松・西天満地域は、大阪では他に例のないアートの集積のある老松通りを中心とした地区をもち、アートを切り口とした都市活性化の可能性をもっとも秘めている地域なのです。また、東部の中心の一つである天神地域でも落語小屋の計画が進みつつあり、北区の2大中心である大阪駅前地域と天神地域を結ぶ要衝にあり、天神の表参道でもあった同地域に注目があつまりつつあります。一方で、土地利用が不安定化し、個性的な町並みが失われかけているという微妙な状況もでてきています。そこで、扇町創造村構想とともに、いま、老松西天満アートストリート構想というアイデアが進みつつあるのです。

##### （4）老松西天満アートストリート構想とは

実は、有名なアートの町である老松・西天満地域も、これまで「古美術」「ギャラリー」「町内会」

などの各主体はほとんど交流がありませんでした。そこで、「老松西天満アートストリート構想」を策定、それにより、はじめて、古美術・ギャラリー・地域関係者・大学等専門家（大阪市立大や大阪芸術大）による横断的な組織「老松西天満アートストリート会議」を立ち上げることになったのです。老松・西天満地域をアートテーマとして活性化するこの「老松西天満アートストリート構想」のもとで、様々な試みが展開されつつあります。

目下、大阪芸術大学、地元の西天満小学校、北区の教育機関キッズプラザなどとも連携し、アーティスト、大学生、小学生、先生方などのセタアート作品を展示する「セタアートストリート祭り」の「セタアートコンテスト」を企画し進めています。これは、地域の主人公同士が合同して地域活性化について考える初めての試みであり、その精神はアートをテーマにしたコラボレーションにあるのです。

(※)『創造村をつくろうー大阪・キタからの挑戦』(晃洋書房刊、2006年)「第Ⅱ部第3章 北区の創造的活動と創造的街区」(小長谷一之、田中登、牛場智)より抜粋。

【参考文献】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

アートのまちづくり研究会編(2005)『アート拠点調査Ⅱ』創造都市研究科。

小長谷一之(2005)『都市経済再生のまちづくり』古今書院。

田中登(2006)「専門性の高い同業種集積についての研究ー老松町古美術街を例にとってー」(創造都市研究科都市政策専攻修士論文)。

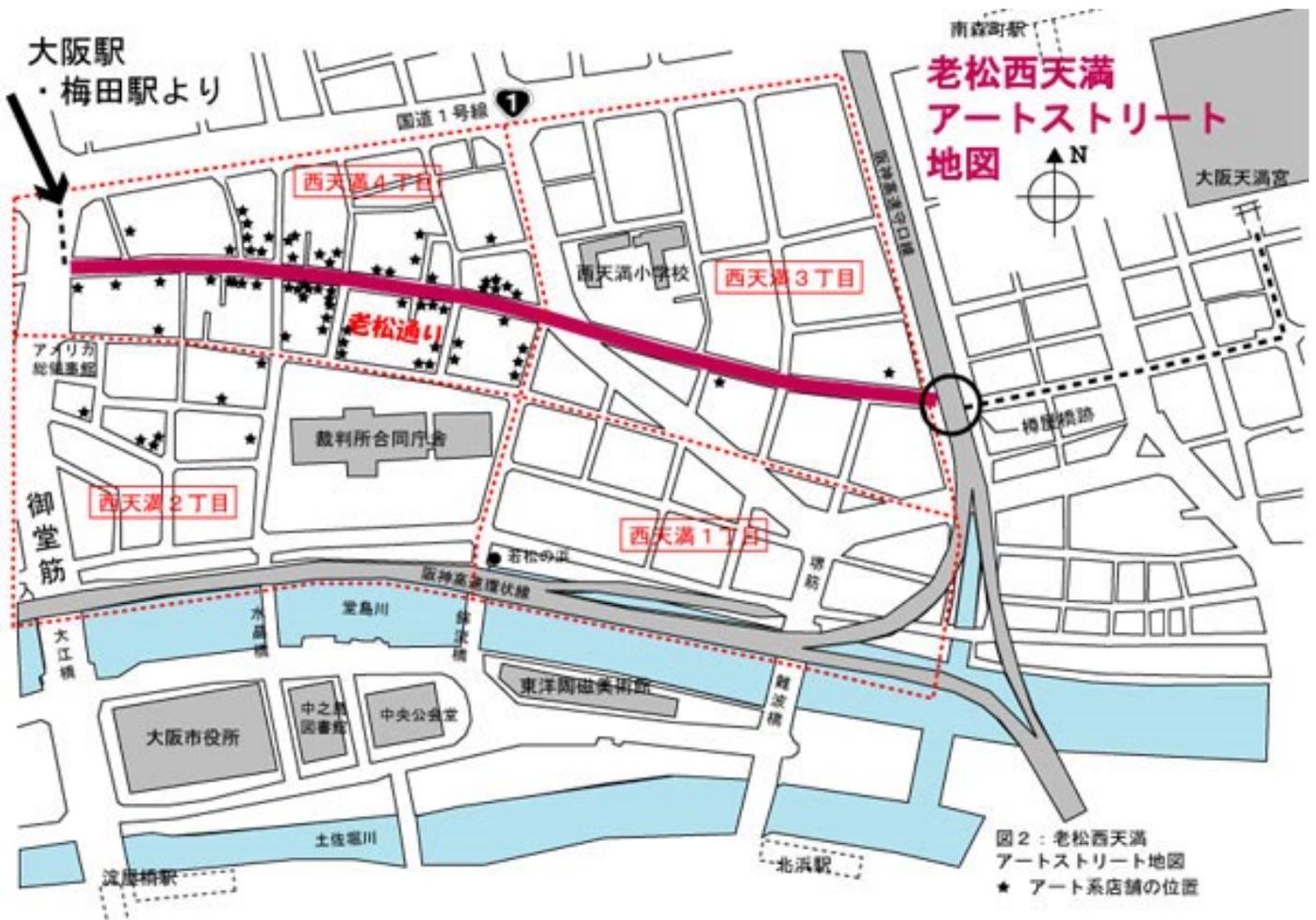


図2：老松西天満アートストリート地図  
★ アート系店舗の位置

### 【老松西天満アートストリート構想】について

老松西天満は・・・都市再生の鍵であるアートをもった地域です

近年、都市を活性化しにぎわいをもたらすものとして、世界中の都市で、アートの効果が重要視

されるようになってきています。

大阪市北区は、大阪市内でも、デザインやアート系の業種の半数近くが集積しているという注目すべき地域です。中でも、老松・西天満地域は、大阪では他に例のないアートの集積のある老松通り(古美術商、ギャラリーを合わせて80件程度があると推定されます)を中心とした地区をもち、アートを切り口とした都市活性化の可能性をもっとも秘めている地域といえるでしょう。

今は・・・キタの力が拡大する時期にきています

一方、21世紀初頭の現在、北区では、もともと西日本最大のターミナルである大阪・梅田駅を中心に阪急・阪神・JR等の立て替えや北ヤードプロジェクトなど、大規模開発が多数計画されており、衰退する地域が多い大阪の中にあつて、例外的に「キタ」の力は拡大しつつあります。それに伴って、周辺の町に活性化の動きが多くでてきており、地域活性化のチャンスが到来しつつあります。

### 老松西天満は・・・東西を結ぶ表参道

このような中で、老松・西天満地域の動きはやや遅れていました。一方、東部の中心の一つである天神地域でも落語小屋の計画が進みつつあり、北区の2大中心である大阪駅前地域と天神地域を結ぶ中間にある老松・西天満地域に注目があつまっています。「老松町が大阪の発展のなかで初期のキタの中心であり天神の表参道であった」というということが改めて思い起こされます。老松・西天満地区は、大阪駅から歩いて天神に抜けられる位置にあり、アートをテーマにした街区のある、資源を沢山もった地域です。

### 今は・・・危機であると同時にチャンス

このような老松・西天満地域ですが、一方で、個性的な町並みが失われかけているという微妙な状況にあることも事実です。

いまは、キタ全体の活性化の波にのれるのか、あるいは個性的な町並みが失われるのか、大きなチャンスでもあり同時に危機にあり、地域が一丸となって、アートという個性を生かしてまちづくりをする重大な局面にさしかかっていると思われまます。

### アートストリート会議が・・・まずきっかけをつくりまます

そこで、このたび、老松・西天満地域の古美術・ギャラリー関係者も含めた有志で、町内横断的な組織「老松西天満アートストリート会議」を立ち上げ、町内会を中心として大学(大阪駅前第2ビルにある大阪市立大学創造都市研究科)などと協力しながら、老松・西天満地域を、アートをテーマとして活性化する様々な試みを展開してまいりたいと存じます。

関係各位におかれましては、老松・西天満をより良くしていくという地域の気持ちを結集し、構想にご賛同いただきますようお願いいたします。

老松西天満アートストリート会議

=====

### これまでの動き

#### 【老松西天満アートストリート会議】 これまでの実績

(1) 『平成17年大阪市北区商業活性化協会度商店街調査研究採択事業』に採択されました

1) アートストリート祭りの企画・運営: 老松西天満をアートで活性化するための総合的なアートイベントを企画・運営する。

2) アートストリートとしてのインフラ整備: 「天神表参道復活計画」) 老松町などの街路を、梅田駅前から、天神までそぞろ歩きできる大人の町として、街路を整備する以下のような検討を行う。

i) 電柱の地中化。 ii) 西天満4丁目~1丁目の街路の統一的なイメージ造り。 iii) 灯籠などの整備。

3) アートストリートとしてのプロモーション:「老松西天満アートストリート構想」のためのウェブサイトの立ち上げと運営。

4) その他、アートをテーマとした老松西天満地域活性化の方策の検討と実行。

5) こうした構想推進を行うための調査・研究を、大阪市立大学大学院・創造都市研究科の協力を得て、行う。

i) 財団法人大阪市北区商業活性化協会と大阪市立大学創造都市研究科との連携協定に基づき、地元町会および当会議より、「老松西天満アートストリート構想」の調査研究を申請し、立ち上げる。

ii) 上記1)～4)についても、大阪市立大学大学院創造都市研究科との協力のもとに進める。特に研究成果を公表し、「アートストリート」としてプロモーションするウェブサイトを、地元商店会、古美術、ギャラリー等の連合で立ち上げる。

(2)『平成17年大阪市立大学重点研究「創造都市を創造する」』に関する連携プロジェクトとして採択されました

<以下同計画より抜粋、1)都市再生のための「実践的な知」の構築、2)扇町創造村構想—大学院が所在する北区の具体的な活性化への参画を通じた研究。たとえば、具体的な取り組みとしては、理解と認知→意義付け→運動のフェーズを経て、①シンポジウム「芸術と経済の融合」、②シンポジウム「境界を越える」、(3)扇町創造村フェスタ、(4)TV番組制作とその放送、(5)エディターズ・ハウスなどのトレンドの創出、(6)ファッション・ストリートの創造、(7)観劇とライブの街、(8)楽しい食文化の街、(9)回遊性のあるブランド・ショップ街、(10)作品や原画の町・創造現場の見える街、⑪シテデザール(芸術家向けアトリエ付きマンション)、などを発信し、産業と文化を創出するフェーズへと至るなどの例を想定している。このような可能性の研究・検討を行う。3)研究者・地域リーダーの育成>

=====  
**アートストリート地図**



## 西天満 4丁目



No. 01 秦古美術。No. 02 近現代美術工芸 和泉玉箒堂。No. 03 古美術 有隣館。No. 04 藤原集古堂。No. 05 菁々堂。No. 06 西美術店。No. 07 古美術 中原。No. 08 美術舗 くろかわ。No. 09 骨董 沙羅。No. 12 古美術 葉山。No. 13 古美術 中村。No. 14 欧州美術。No. 15 新古美術&ギャラリー 江月 梅田店。No. 16 画廊 元美堂。No. 17 古美術 いさと。No. 18 賢祥堂美術店。No. 19 三浦アートギャラリー No. 20 アートサロン 山木。No. 21 古憩 No. 22 若林梅香堂。No. 23 美術舗 瀧川峰晴堂。No. 24 アトリエ尚。No. 25 ギャラリー浅羽。No. 26 古美術 上野。No. 27 アート・啓 No. 28 ギャラリー アルマ。No. 29 横垣粹古堂。No. 30 淀画廊。No. 31 陶泉房。No. 32 前坂晴天堂。No. 33 古美術 ふくむら。No. 34 古美術 たねおか。No. 35 古美術 河崎。No. 36 中國美術。No. 37 ギャルリーメゾンドウヨウコ。No. 38 古美術 きたむら。No. 39 古民芸 まつもと。No. 40 ギャラリー帝塚山老松サロン。No. 41 ギャラリーみずの。No. 42 ギャラリー恵寶堂。No. 50 ギャラリーヒロオカ No. 51 ギャラリーかがやき。No. 52 西洋古美術 白羊宮。No. 53 人形堂。No. 55 画廊 21 別室。No. 60 ギャラリーたく琢。No. 61 たきい画廊。No. 63 服部美術。No. 64 ギャラリー道草。No. 69 ギャラリーいるふ。No. 70 ギャラリー菊。No. 71 河津美術店。No. 73 ギャラリーキスペース。No. 74 画廊猶軒。No. 75 兜画廊。No. 76 民芸普及部 (日本工芸館普及部)。No. 77 辻尾美術商。No. 78 現代クラフトギャラリー。No. 79 大阪現代画廊 No. 80 古美術あぜくら。No. 81 現代クラフトギャラリー。No. 82 ギャラリー白。No. 83 ギャラリー吉祥。No. 84 H・Fアートラボラトリー。No. 90 古美術祥雲堂。No. 91 古美術和田。No. 92 古美術岡や。

## 西天満 2丁目



No. 10 瀬良石苔堂。No. 54 画廊 2 1。No. 65 茶道具十菱。No. 66 骨董の店 和洋館。No. 67 番画廊。No. 68 ギャラリー旭中。No. 72 マサゴ画廊。No. 85 乙画廊。No. 93 フクダ画廊。

### 西天満 3丁目

### 西天満 1丁目



No. 89 ギャラリーHOT。No. 94 ロータスルーツパーク。No. 93 フクダ画廊。